

桜の更新のあり方に関する市民説明会 議事録

日時	令和8年7月9日（木）18時00分～20時00分
場所	国立市役所 会議室棟 さくらのへや
出席者	国立市長、副市長、まちづくり政策監、政策経営部長、基盤整備担当部長、生活環境部長、政策経営課長、道路交通課長、環境政策課長ほか関係職員
参加者数	71名

（司会：政策経営課長）

皆さん、こんばんは。お時間になりましたので、これより「桜の更新のあり方に関する市民説明会」を開催いたします。本日、司会進行を務めます政策経営課長です。よろしくお願いいたします。

初めに、国立市長より一言ご挨拶をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（市長挨拶）

皆様、こんばんは。国立市長の濱崎真也です。本日は、桜の更新のあり方に関する市民説明会にご参加くださいます。誠にありがとうございます。

本日は、国立の宝物であり、市民の皆様にとって大切な財産、そして景観である桜を、しっかり大切にしながら、安全に次世代へ引き継いでいくということで、矢川駅北口駅前広場の倒木以前から国立市が取り組んできたことも含め、どういうことをしてきたのか、そして今後どう対応していくべきかについて、最初に市からご説明させていただきます。今後も桜の風景をしっかりと残していくために、今後のビジョンのようなものを決めていくことも大切だと思っておりますので、説明の中ではそのことにも触れさせていただきたいと思います。

そうしたことを踏まえ、市民の皆様からも本日ご意見をいただき、桜のことについて改めて考えていく場にできればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（司会：政策経営課長）

市長、ありがとうございました。それでは、本日の流れについて簡単にご説明いたします。まず、これまでの経過と市の全体的な対応についてお話しした後、矢川通り、国立駅南口駅前広場及び大学通りについて、それぞれの対応状況や今後の桜の更新の方向性をご説明します。その後、参加者の皆様から質疑やご意見をいただきたいと思います。

なお、記録のため、写真撮影と録音を行いますので、ご承知おきください。よろしくお願いいたします。

（参加者）

参加者側からの写真撮影は構いませんか。

（司会：政策経営課長）

はい。写真撮影については構いません。

（政策経営課長）

それでは、まず、これまでの経緯と全体的な対応についてご説明します。令和８年４月９日に発生した矢川駅北口駅前広場での桜の倒木を受け、市がこれまで行ってきた対応についてご説明します。桜は、長きにわたり暮らしに彩りや楽しみをもたらしてくれており、先ほど市長からも申し上げたとおり、国立のかけがえのない景観であり、財産です。しかし、矢川駅北口駅前広場で発生した倒木を踏まえ、安全確保を最優先に考え、美しい景観を残しながら桜の更新を図っていく必要があると考えています。

緊急的な対応として、本日お話しする街路樹や公園のほか、学校など市が管理する全ての施設について、明らかに危険性がある木がないか確認するため、職員等による目視点検を実施しました。現在は、造園業者や樹木医の専門的な見地から点検、診断を行っています。

矢川駅北口駅前広場の倒木については、倒木前に風が強かったことも一つの要因と認識しています。今年も既に２回ほど台風が接近しており、夏の終わりから秋の初め頃には台風が接近しやすくなる可能性が高まります。市民の皆様にも長く愛されてきた桜を極力残していきたいと考え、これまで管理してきましたが、安全確保を最優先に考える観点から、剪定や伐採など必要な対応を検討している状況です。

安全確保のため、やむを得ず樹木を伐採する場合にも、緑を確保していくことは非常に重要です。生育環境などを考慮しながら、基本的には新たな桜に植え替えていくことを考えています。続いて、矢川駅北口駅前広場で発生した桜の倒木状況、矢川通りの対応状況と今後の方向性、国立駅南口駅前広場の今後の方向性、大学通りの対応状況と今後の対応予定について、道路交通課及び環境政策課から説明します。

資料説明（道路交通課長・環境政策課長より説明）

(政策経営課長)

最後になりますが、これまで説明した国立駅南口駅前広場、大学通り及び矢川通りの今後の桜の方針は、それぞれエリアごとに更新時期などがあるため、個別に検討していくことになります。

一方、国立の桜並木の景観を将来に渡り引き継いでいくため、この3エリアにさくら通りも加え、個別の更新計画を考える上での基本的なビジョンとなる全体的な計画を、市民の皆様、桜の保全や維持管理にご尽力いただいている団体の皆様をはじめ、桜に関わる様々な方のご意見を伺いながら作っていきたいと考えています。全体計画については、市役所内部で部署横断的に検討を進めます。準備ができましたら、改めてお知らせします。説明は以上となります。

【質疑応答】

(司会：政策経営課長)

それでは、参加者の皆様から質疑、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。本日は多くの方にご参加いただいております。できるだけ多くの方にご発言いただくため、発言はなるべくまとめていただくよう、ご協力をお願いします。時間の関係でお声掛けすることがあるかもしれませんが、ご了承ください。

(参加者)

3点ございます。本日の現状分析の対象にはさくら通りが入っていません。なぜ、さくら通りの現状分析がないのか、逆に言えば、さくら通りの桜はみんな元気なのかという疑問があります。

2点目は、桜の植え替えに当たっての樹種について、どのように計画しているのかをお聞きたいと思います。

3点目は、直接桜とは関係ないかもしれませんが。大学通りの自転車道は一方通行ですが、さくら通りの自転車道は対面通行になっています。桜のひこばえや新しく生えてくる枝、桜並木の間にある植栽が、今ものすごく横へ伸びています。自転車ですれ違うときにとても危険だと思いますので、そのことも申し上げます。

(道路交通課長)

まず、さくら通りの現況について、本日の説明にはなかったとのことですが、さくら通りは第1工区から第6工区まで道路改修工事が全て終わっています。樹木が老木化し、診断結果がC判定となった箇所を順次伐採し、年間10か所程度の植え替え工事を実施しています。診断結果

等について、本日の資料にはありませんが、ホームページ等で広報していきたいと考えています。

樹種について、国立駅南口駅前広場のイメージパースは、ジンダイアケボノとヨウシュンという樹種を想定して作成していますが、あくまでイメージの段階であり、今後検討していきますが、樹種としては桜を基本に考えています。矢川通りについては、令和9年度から設計業務を開始する予定であり、樹種は設計段階で決めていきます。樹種の選定に当たっては、市民の皆様とも相談しながら決定していきたいと考えています。

自転車道のすれ違いについて、大学通りはご指摘のとおり一方通行です。さくら通りについては、設計、工事前に交通管理者である警察と協議し、当時の自転車道のガイドラインでは対面通行という考え方であったため、今も対面通行で運用しています。ひこばえについては、走行環境を阻害している状況がありますので、剪定をしっかりと行っていきたいと考えています。

（参加者）

前回のイメージパース報告会で桜について質問しました。そのときの市の回答に関連して1点、もう1点は駅前広場について質問します。

まず、矢川通りについて、資料3ページの下に「設計業務の中でも桜の樹種の選定について検討」とあります。前回の説明を聞いた限りでは「桜」という言葉がなかったように思い、私の受け止めでは、現在の桜を全部切り、桜ではないものに全部植え替えるつもりがあるのではないかと聞こえてしまいました。今回、「桜」と明確に書かれていますので、継続して桜を基本とする方針なのかを確認したいと思います。前回と受け止めが違いました。

もう1点は、資料6ページの一番下に、「添え木等の対応が困難と専門家に確認」とあります。前回の説明では、専門家は一般社団法人街路樹・都市樹木診断協会の診断士であると受け止めました。その方の判断だけで「添え木は無理」とすることには、非常に疑問があり、納得できません。道路に関わる診断士だけでなく、複数の桜を大切に考える専門家の方にも入っていただき、どうすれば残していけるのかを考えていただきたいと思います。B2判定の桜が矢川駅北口駅前広場で倒れたのであれば、国立駅南口駅前広場の桜も倒れる可能性があるということで、伐採の前に、緊急的に倒れないよう措置する方が良いのではないのでしょうか。

（道路交通課長）

1点目の樹種について、市としては、既存樹種として桜があり、市民の皆様から長く親しまれていることも踏まえ、桜を基本と考えています。

国立駅南口駅前広場の添え木については、一般社団法人街路樹・都市樹木診断協会に確認しています。歩道空間が非常に狭く、添え木側にも十分な空間がなく、既存樹木が大きいことか

ら、添え木による存置は難しいのではないかと判断でした。今後、様々な方の意見も必要だと思いますので、丁寧に進めていきたいと考えています。

(参加者)

前回のイメージパース報告会にも出席しました。その説明の中で、修正案として桜を植え替えるということが書かれていました。そこには、「市内で倒木があり、それを受けて」と書いてあります。まず申し上げたいのは、矢川通りの問題と国立駅南口駅前広場の問題は、ひとまず別に考えた方が良くはないかということです。矢川通りの植樹の状況を見ると、著しく条件が悪く、今後道路工事をするという事です。一方、国立駅南口駅前広場については、「倒木があったから国立駅南口駅前広場もやる」という修正案になっています。

ところが、設計方針には、「既存の桜をできる限り長生きさせつつ、将来的な桜の更新も考慮したデザインとする」と書いてあります。方針から変えるのであれば、前回も質問したとおり、方針そのものの見直しをもう一度議論すべきであり、そこに立ち返って議論を始めるべきではないでしょうか。そのことへの明確な回答はありませんでした。誰が決めたのかについては、市で決めたとのことでした。しかし、方針は議会で了解を得ていることのはずですから、方針を覆すのであれば、原点に立ち返るべきです。

もう1点、修正案の文章、市報に載っている文章、そして今回の国立駅南口駅前広場に関する文章が微妙に変わっています。修正案どおりの文章であれば、その覚悟の上で行うのだと多少は理解しましたが、今回は違い、表現が微妙に変わっています。私たちは信頼関係を持って話し合っているわけですから、表現に統一性がない以上、基本方針の段階から明確にしなければ、最終的に問題は収まらないのではないのでしょうか。

以上の3点です。1点目は、矢川と国立駅南口駅前広場は別問題ではないか。2点目は、方針を修正するのであれば基本方針から考えるべきではないか。3点目は、表現が変遷していることについて確認したいということです。

(道路交通課長)

まず、国立駅南口駅前広場と矢川通りの考え方を切り離すべきとお話ですが、国立駅南口駅前広場についても、矢川駅北口駅前広場で倒木があったことは契機となっています。B2判定の桜が倒れたことを非常に重く受け止めています。倒木による甚大な被害は避けなければなりません。国立駅南口駅前広場の診断結果は、17本のうちB2判定が16本、B1判定が1本です。広場整備には約2年以上かかることから、ますます腐朽が進むことも懸念しています。令和8年5月末には枝折れもあり、腐朽が進んでいると考えています。このため、広場整備に合わせ

て植え替え工事を行いたいと考えています。ただし、これから外観診断等を行いますので、専門家の診断結果を踏まえ、改めて検討します。

設計方針については、実施設計を行うための方針であり、実施設計の段階で変更が生じることはあると考えています。ただし、安全性を考慮し、将来的な桜の更新も考慮したデザインとするため、街路樹診断を行い、改めて更新する樹木を検討します。

文章の表現が微妙に変わっているとのことですが、市としては一貫していると考えており、現段階で表現を変えているとの認識はありません。

(参加者)

それは全然違います。よく読んでみてください。

「既存の桜についてはできる限り保全していく方針としていましたが、市内で発生した倒木を受け、桜の景観を次世代へ引き継ぐために、整備に合わせて植え替えを進めます」と書いてあります。一方、設計方針は、「既存の桜をできる限り長生きさせつつ、将来的な桜の更新も考慮したデザインとします」です。設計方針に従って行うことを「修正」と書いてあることを、私は問題にしています。その修正の理由に、市内で起きた矢川駅南口駅前広場の倒木を挙げています。これは明らかに、倒木に関係して方針を修正したということです。そこをはっきりさせなければ、いつまでも堂々巡りになります。市報の表現も微妙に違います。修正案の表現に統一すべきです。ここで設計方針そのものを変えているのですから、そのことをはっきりお話しすべきです。

ここには、「既存の桜はできる限り保全する方針としていたが、市内で発生した倒木を受け、整備に合わせて植え替える」と書いてあります。保全方針をやめましたということです。統一して書かれているのであれば、私も最後には納得できたと思います。しかし、市民に出すメッセージとしては極めて問題であり、間違っていると思います。その姿勢について、はっきりした態度で示していただきたいと思います。

(基盤整備担当部長)

設計方針にも「更新」という言葉を使っています。延命させるための様々な検討は現在も行っており、引き続き検討していきたいと考えています。その中で、将来的なことを考えた「更新」ということですので、設計方針自体は変わっていないと考えています。

市報等の文言については、ご指摘の点があろうかと思います。倒木事故を受けてすぐという時間的な事情もあったと思いますが、将来的な更新という考え方は統一しています。言葉の使い方については、今後注意していきたいと考えています。

(参加者)

今の方の意見とほぼ同じですが、何をやっているのかと思います。既存の桜を残すという基本方針、設計方針で、5,800 万円の設計予算が議会で可決されているのではないですか。実施設計で桜を全て植え替えることになれば、歩道を少し広くするといったことではなく、ものすごく大きな方針変更です。そうすると、5,800 万円の内訳も変わってしまうのではないですか。議会は要らないということになるのではないですか。市民がここで決めるというのも非常に不思議です。

議会で承認されたものをここでひっくり返し、どんどん変わっています。令和 8 年 3 月の市民説明会では既存の桜を残すとし、令和 8 年 6 月になったら、ほぼ伐採すると私には聞こえました。令和 8 年 3 月議会で 5,800 万円を決定しているのであれば、勝手に市長の思いつきのようなことで変えられるのはおかしいと思います。議会の建設環境委員会では、国立駅南口駅前広場の街路樹は桜に限らず、あくまで道路の附属物との説明も聞きました。どんどん変わる中で、ここで何を決めようとしているのでしょうか。もう一度、議会に諮らなければいけない問題ではないのでしょうか。そうでなければ、法律に抵触しませんか。5,800 万円が変わらなくても中身は大きく変わっています。その点を説明してください。

(基盤整備担当部長)

5,800 万円は設計費とのことでよろしいでしょうか。市としても、仕様に基づいて設計業務を発注しています。将来的な更新という基本方針は、基本設計を発注した中で立ててきたもので、実施設計に向けた設計方針です。一般的には、設計方針の全てを 100% 達成することはなかなか難しいと考えています。細かいところでは変わってきている部分もありますので、何が変わり、何がそのままなのかを皆様にお示ししなければならぬと考え、現在その作業を行っています。実施設計に入り、物理的にできないことや、様々な条件によりできなくなったことはありますので、別の機会に改めてお知らせします。

(参加者)

基本設計が変わるのであれば、やはりおかしいと思います。

(基盤整備担当部長)

他の設計でも、当初の考え方どおりに全て設計できるとは限りません。道路に限らず、建築物でも仕様どおりにできないことは事実としてありますので、その点はご理解いただければと思います。

（参加者）

3点伺います。まず、市長は今回迅速に対応されていると感じます。もし、前市長が現職であった場合にも、迅速に対応したのだろうかと感じました。矢川駅北口駅前広場の倒木がテレビや新聞でも話題になり、市が安全第一でやりたいという姿勢が見えています。私は、安全第一で進めてほしいと思っています。

2点目は、資料3ページの矢川通りの改修についてです。令和9年度以降に実施する道路改修工事は、何年間くらいの期間で行うのでしょうか。桜の更新を道路改修に合わせて行うことを考えているのでしょうか。また、矢川通りは矢川駅北口から新田クリニック付近までだと思いますが、道路改修はどこまでを予定していますか。

3点目は、先ほどの方が仰ったように、国立駅南口駅前広場の整備と矢川駅通りの整備は区別した方が良いと思います。国立駅南口駅前広場は、駅前広場整備に合わせて桜を植え替える。矢川通りについては、南武線連続立体交差事業が2030年代に予定されており、これから矢川駅周辺をもっと魅力ある駅周辺にしなければなりません。それに合わせて道路を改修し、桜を植え替えるのであれば、そのような方向性を持った方が良いと思います。

（基盤整備担当部長）

まず、街路樹は道路の附属物という位置付けで道路側が管理しており、公園や緑地とは特性が異なります。特に重要なのは、交通を含めた道路利用者の安全であり、ご指摘のとおり私もその考えで取り組んでいます。

矢川通りは緊急輸送道路であり、対象範囲は、矢川駅から国立市立第二中学校北側付近まで、ちょうど桜がある区間の道路改良を考えています。スケジュールとしては、令和9年度に基本設計、令和10年度以降に実施設計を行い、令和11年度以降に工事を考えています。工事は何工区かに分けなければいけないと思いますので、1年以上は当然かかり、場合によっては2年ほどかかると考えています。その中で、沿道住民や関係者と、桜の樹種や今後の維持管理について意見交換しながら設計を進めたいと考えています。

国立駅南口駅前広場と矢川通りを分けた方がよいとのご意見について、状況は当然異なります。本日は桜全体の方針ということで一緒に説明しましたが、今後は各事業に合わせ、個別に説明したいと考えています。

（参加者）

1点目については、副市長から答えていただきたいと思います。前市長が現職であったとしても、同じように迅速に対応していたのでしょうか。

(副市長)

前市長がどう判断したかは推測になりますので、ここで申し上げることはできません。

(市長)

スピード感が急ではないかとの点は、しっかり受け止めなければならないと思っています。もう一つお話ししたいのは、B2 判定の桜が矢川駅北口駅前広場で倒れたことを、市として重く受け止めているということです。これまで B2 判定の桜について、事故が起こるところまで緊急性を高く想定しきれていなかった部分があります。今まで想定していなかった事案が生じたときに、全体の対応をどう変えるかということは、どうしても避けられない問題だと思います。国立駅南口駅前広場にも B2 判定の桜があるということで、事故があったから短絡的にということではないことはご理解いただきたいと思います。

生育環境によっては、B2 判定でも倒木が起こるという事象を踏まえ、市の全管理樹木を点検しています。本日は、3 エリアだけご説明しましたが、基本的に考えなければならないのは市全域の安全です。その中で、国立駅南口駅前広場には B2 判定の桜が多く、交通量が多いことも事実であるため、検討対象にせざるを得ません。生育環境も非常に重要です。大学通りのように、ある程度根が張れる環境があり、様々な措置や支柱を設置できる空間かどうかという点があります。国立駅南口駅前広場は、どちらかといえば矢川通りに近い環境であるとの認識で検討しています。ただし、現在聞いている専門家だけでなく、もう少し様々な知見を聞いていきたいと考えています。

今回、予測しなかった事態に応じて対応しており、議会で予算をお認めいただく前に説明会を開催することは、なかなか難しいところがありました。議会の後、すぐに説明会を開いてきたところですが、皆様から見ると急に決まったとの印象を持たれる方がいらっしゃることは、私として受け止めたいと思います。今決まっていることの情報公開を含め、もう少し丁寧な対応が必要だとのご意見は、市で受け止め、今後この問題を考えていきたいと思っています。

(参加者)

前回、6 月 28 日のイメージパース報告会にも出席しました。そのときに出た意見はどこに記録されるのかと伺い、市のホームページに掲載すると言われましたが、まだ出ていません。いつ掲載されるのでしょうか。本日の説明会の前に掲載されると良いと思っていました。

(道路交通課長)

現在、決裁中です。決裁が完了しましたらホームページに掲載したいと考えています。

(参加者)

本日出た意見も、様々な場所にバラバラに掲載するのではなく、このことに関する市民の意見が探しやすい形で表に出てくるべきだと思います。意見の積み重ねはとても大切です。

先ほどの方が仰ったように、私も、市の表現というより、考え方が前回の6月28日の報告会を経て少し変わってきたのかと受け止めました。前は、国立駅南口駅前広場の桜は整備計画に合わせ、全部、保全ではなく植え替えるとの説明でした。今回は、診断後に決める、本数はこれからと変わりました。市民の意見を受けて変えられたのか、それとも、曖昧にしてあるのか、判断に困りました。その点を伺いたいと思います。

また、本日出た意見が、この先どのような形で扱われるのかをもう少し示していただきたいと思います。前回、市長は、こうした会を複数回行くと仰いました。関係団体に話を聞くことなども示されました。私は、現場で木を扱っている方々の意見、樹木医の声も直接聞きたい、シンポジウムのように様々な立場の方が集う意見交換の場を設けて欲しいとお伝えしました。そうしたことを考えていらっしゃるのでしょうか。

これは、これから非常に大きな政策になってくると思います。今は桜のことですが、市内の市管理樹木約3,000本を点検していくのですよね。この機会に、全ての樹木のマップを作りたいと思います。安全か危険かだけのマップではなく、ニューヨーク市が作っているように、樹木の機能や価値、樹高、どのくらい二酸化炭素を吸収し、水を涵養し、生物多様性を守っているかを見える化し、市民に公開して、みんなで大事にする方向へ進んで欲しいと思います。

一本の倒木が、最後に悲鳴を上げたというか、誰も傷つけずに倒れた桜の声を聞き、ここから国立市が、市民の命を最優先にしながらも、樹木のないまちには市民の安全も健康もないと考えて欲しいと思います。ニューヨーク市のような樹木マップを作り、桜だけでなく樹木の価値を見える化して、もっと植樹し、もっと植えられところに植え、緑をどう増やすかを考え、樹冠被覆率30%以上を目指すビジョンを示していただきたいと思います。

後で資料をお渡ししますが、フランスのナント市が2024年4月に「樹木憲章」を策定しており、3つの柱と24の具体的な行動指針が示されています。環境、人権、命を大切にするまちづくりを進めています。リヨンにも樹木憲章があります。この機会に、国立もそのようなまちになって欲しいと心から思います。

（基盤整備担当部長）

議事録の公表については、今回、部署が複数にまたがるため、どのような形が良いかを検討します。公表する方向で考えており、市民の方に分かりやすい形で、今回の開催報告をしたいと考えています。

（市長）

現在、都市計画マスタープランを策定している中で、関連してお話しします。無作為抽出で行ったワークショップや説明会の場でも、一番多いのは緑に関するご意見です。国立駅南口駅前広場の基本設計プランを決める際の説明会でも、緑に対するご意見が強くありました。市民の皆様が、桜以外のものも含め、緑をととても大切にしていること、国や東京都でも緑を大切にする政策的な転換が進んでいることを踏まえ、市としても、そのことを大切に今後取り組みたいと考えています。具体的に何が出来るかについては、本日出たご意見も踏まえて考えさせていただきたいと思います。

（参加者）

資料を見ると、大学通りの土壌改良については書いてありますが、矢川通りのことは書いてありません。令和6月の東京新聞で、世田谷区内で倒木が起きたとき、区長たちが「ただ事ではない」と受け止め、木が生きるには土を変えなければならないと気づき、まず行ったのが土壌改良だったという記事を読みました。

大学通りについては丁寧に様々なことを行っていますが、街路樹については、10年以上前のさくら通りの伐採時にも、道路の附属物であるとして何もできないような説明でした。ただ、さくら通りでは根が伸びるための工法を採用するとして、現在のように新しい桜へ更新しました。矢川通りも、倒れたら安全のために伐採し、新しい木に植え替えるだけでは、5年、10年たったとき、また同じことが起きます。10年以上前から市のやり方が変わっていないと感じました。

根本的に、樹木が生きられる環境がなければ人間も生きられない、街路樹は単なる道路附属物ではなく、人間が生きるために酸素を出し、共存していくものだという気持ちで、矢川通りや国立駅南口駅前広場の桜も、B2判定で危ないから切るということではなく、日頃から土壌改良を行い、人間が手を加えれば生きていけることを子どもたちにも伝えるくらいの国立市であって欲しいと思います。矢川通りや国立駅南口駅前広場で土壌改良を行う考えはないのでしょうか。

(道路交通課長)

街路樹は、生育する空間が狭いという環境があります。現状の植樹桝は、既に根が張り詰めている状態であり、なかなか難しいと考えていますが、専門家にも確認しながら何ができるかを検討する必要があると考えています。矢川通りについても、生育空間が狭いため、樹勢回復することが難しいと樹木診断士から意見をいただいています。

(参加者)

土壌改良をしないということですか。世田谷区が行っているように、土を変えようとはしないのでしょうか。

(基盤整備担当部長)

矢川通りについてご説明します。植樹桝は 75cm ほどの幅です。木の幹周りは、おおむね 1.2m から 1.4m、直径で 60cm から 70cm ほどあります。これは高さ 1.2m 付近の幹周りですので、根は植樹桝からはみ出ている状態です。植樹桝の中は根がびっしり詰まっており、土壌改良を行いたくても、根への影響があって掘ること自体がかなり難しい状態です。適切な土壌改良について検討しましたが、現段階では難しいと考えています。

ただし、これまで当初から土壌改良を行っていなかったことは反省点です。この機会を捉え、道路改修とともに土壌改良、根上がり防止などを最初から行い、毎年、年度ごとにどのような維持管理や剪定を行うかについても、市民の皆様や専門家を含めて検討する機会を設けたいと考えています。

(参加者)

設計費 5,800 万円の内訳を知りたいと思います。保全から伐採、植え替えへ変わることで、内訳が大きく変わる可能性があるかと受け止めてよいのでしょうか。

もう 1 点は、安全のためにどうしても切らなければならない木があることはよく理解できます。しかし、切った後に、その木を活かすこともあると思います。私は染め物をしているので、木はとても大切です。国立は桜が名物ですから、その桜を活かすことができると思います。そのような考えはないのでしょうか。

(道路交通課長)

設計費の内訳は、今、この場に資料がなく、すぐにお示しできません。今後、伐採、植え替えを行う場合と、既存樹を生かす場合とでは、工事費は変動します。工事費は、実施設計が終わった段階でお示しできる環境が整います。一方、設計段階では、植え替えであっても延命措置であっても、設計費は変わらないとご理解いただければと思います。

（基盤整備担当部長）

切った木をどう活かすかについて、市としても、切りっ放しは良くないと考えています。工事までにはまだ時間がありますので、市民の方、専門家の方の意見をいただきながら考えていきます。国立駅南口駅前広場では、現在、「くにたちえきひろ大学」として、市民の方約 30 人にご協力いただき、木材などを何かに活用できないか、桜にはどのような物語があるか、植栽をどう管理するかなどを考えています。どのような活用ができるか、進捗に合わせ、市報などでお知らせできればと考えています。

（環境政策課長）

環境政策課も、伐採した桜の活用について同じ視点を持っています。伐採して何も活用しないことにはならないよう、今後検討します。具体的な活用方法はまだ決まっていますが、他市の事例において、ボールペンの持ち手に木を用いて皆様へ提供するなど、様々な取り組みを行っていることも確認しています。市だけでなく、関わっている市民や子どもたちと話し合いながら、活用方法を検討する機会を設けたいと考えています。

（参加者）

10 日ほど前のイメージパース報告会では、国立駅南口駅前広場の桜は全部伐採する、次に植える木は決まっていないというお話で、大変ショックを受けて帰りました。この 10 日間で随分話が変わり、今日は桜を大切にするような口調に変わっているので、大変驚きました。当初の計画どおり、違和感がないように 3 本ずつ更新していく方法に戻してくれませんか。前は、全部伐採し、次に植える木は決まっていないとのことでしたが、本日は桜を植えるとのことでした。

市長が市長選に出られたとき、私は直接お話を聞きました。「国立をパリのようにしたい」と仰いました。パリでは、市内に 5 万本の木を植えるとの取り組みがあります。立川の立飛の社長も、理想は立川駅前を森にすることだと言っています。国立は、もうそうなっているではありませんか。傷んでいる木をそのままにしろとは言いません。確かに更新は必要ですが、違和感がないように進めるのが当たり前ではないでしょうか。国立は、環境と桜で持っているのです。

富士見台の交差点からダイエーへ向かうところにも桜並木があります。12、3 年前、あそこの桜に UR が全て添え木をしました。そのおかげで、13 年間、桜はびくともせず、添え木もそのまま健在です。やればできるのです。まず、“できない” “無理だ” という前提で話をされているように聞こえます。できるという可能性を開拓してください。国立は、市民がみんなで作り

上げてきたまちです。いくら市長に権限があっても、まだお若いのですから学び、成長してください。

私はこの10日間、毎日のように国立駅南口駅前広場の桜を見て歩きましたが、急に頭の上へ倒れてくるように感じる木はありません。異常な台風が来るなど非常事態では分かりませんが、通常の生活で、今日それが頭の上へ落ちてくるという危険を感じるものはありません。樹木医の方がC判定、B2判定と仰いますが、ここに出てきて顔を見せていただきたいです。樹木医の顔が見えるようにしてください。

市長が、こうして話し合いをしてくださる姿勢には感謝しています。しかし、これを市民のガス抜きに使わないでください。私たちの言っていることを政策に反映してください。そうでなければ方向を見誤ります。桜の時期に、どれだけ多くの人が国立の桜を見に訪れるか。国立駅南口駅前広場が丸坊主になっていたら、みんな国立がどうかしてしまったと思います。うるさい市民を黙らせるための集まりではありません。市民がどうして国立のまちをつくり続けてきたのか、その核心を理解して欲しいと思います。

市長は以前、国立のことはよく知っているとして、「新宿から30分かかる」「特快が止まらない」「高齢者が多いまち」と仰いました。これは国立の一部分の事実ではあります。しかし、特快が止まらないからといって、国立が不自由したことはありません。国立駅を降りたとき、大学通りを渡ってくる爽やかな風を感じてください。国立駅を降りたときの爽やかな風は、お金だけでは買えません。市民が長年かけて作り上げてきた環境だから風が流れているのです。もっと本腰を入れて、国立というまちを掴んで欲しいと思います。

（基盤整備担当部長）

国立駅南口駅前広場の桜については、当初から、桜を植え、更新していくとお話ししてきたと考えています。樹種はまだ未定ですが、街路樹として実績のあるジンダイアケボノやヨウシュンを中心に考えながら、他にどのような桜があるか、何ができるかを、これから詰めていきたいと思います。イメージパースには桜ではない木も描いてありますが、当初から、設計コンセプトの中に武蔵野の木を考えるということがあり、桜以外の樹種も一緒に検討するものとしてお示ししてきました。

URの添え木は市でも確認しており、かなり広い植樹柵で添え木が行われています。また、剪定により樹冠が抑えられ、風が吹いても大きく揺れない形になっていることを確認しています。特に矢川通りは、あれほどの用地がないため、添え木は難しいと考えています。

樹木医を含め、顔が見える中で話をして欲しいとのことについては、今後、矢川通りなどを進めていく中で、そのような機会を設けられればと思っています。ただし、どのような形で進めるかは未定ですので、ここで断言はできません。ご理解いただければと思います。

（参加者）

本日は初めて参加しました。国立の素晴らしいまちを、参加者も市もみんな愛していて、国立は素晴らしいという点では同じだと思います。その中で、どの方向が良いかを話し合う場ですから、対立する必要はないと思いながら聞いています。

富士見台団地は、昨年 60 周年を迎え、市制も 60 年でした。樹木もその頃に植えられたものがあり、60 年という年月が経っています。樹木は大切にしたいけれども、条件の悪い場所に長く植えられている木は、とても苦しんでいるのではないのでしょうか。矢川通りを歩くと、根が張り出して危険で、道が狭くなっています。土壌改良の提案もありましたが、道が狭く、そこに大きな木がある状況で可能なのか、現実的ではない部分もあると思います。樹木は本来、広々としたところに植えられるものです。そうではない場所に、道路と同じくらいの幅しかないところへ 60 年前に植えてしまった。長年楽しませてくれましたが、ソメイヨシノという桜をなるべく守りながらも、これからを考える時期ではないかと感じています。

桜は大切だという思いは皆同じです。しかし、守り方が違い、反対運動や運営会もありました。植え替えたときは寂しいと思いましたが、新しい桜は生命力が強く、今はかなりしっかり育っています。

UR の話も出ました。団地内は街路樹ではなく、本来は広々と育てられる樹木ですが、矢川駅北口駅前広場の倒木後、UR の樹木医に調べていただいたところ、60 年たった桜やケヤキの数本に C 判定が出ました。一緒に育ってきた愛する木です。しかし、住宅環境部で話し合い、木の落下による死亡事故なども踏まえ、事故を未然に防ぐため、伐採を UR にお願いする方向を出しました。国立の緑を守りながら、新しく進んでいくことを、皆で共有して進められたら良いと思います。

（参加者）

市報の案内を見て本日伺いました。文章に「更新」という言葉が使われており、その言葉にショックを受けました。役所では慣例的に抵抗なく使っている言葉だと思いますが、生命のあるものを物体のように捉えているのではないかという印象を持ちました。国立市の「緑の基本計画」にも「更新」という言葉が使われており、大変抵抗を覚えたことを思い出しました。役所ではない人間から見ると抵抗がある言葉だということをご承知おきください。

2点目です。今回の樹木医の判定だけでなく、信頼できる複数の樹木医の意見を聞いていただきたいと思います。B判定、C判定をそのまま受け取って、いきなり伐採しているわけではないとの方針は分かりましたが、拙速に進めず、慎重に進めていただきたいと思います。緊急時にスピード感を持つ立場は分かりますが、「危険、危険」とあおるような風潮は嫌です。残すか切るかという二者択一になりがちですが、そうではなく、可能な限り残す方法を探ることが大切だと思います。慎重に検討していくとのことは、ありがたく思いました。

私は、国立駅南口駅前広場のたましん前のバス停からバスに乗ります。そこには桜があり、B2判定で危ないと言われているようですが、カラスの巣があり、「カラスの巣あり、注意」という看板が貼ってあります。ああいうものを見ると、良いまちだと思います。樹木は単独で生存しているのではなく、様々な生き物と一緒に生存しています。鳥や虫、人間もそこで生かされているという視点を常に持っていただきたいと思います。木を1本切ることは、鳥にとっても大変なことです。少しずつ切ったとしても、ダメージがあるところにはダメージがあります。多方面の専門的な知見を、様々な方から積極的に聞いていただきたいと思います。そのような方針はありますか。

(道路交通課長)

まず、「更新」という言葉への違和感について、これまでも使ってきた言葉ではありますが、適切でない聞こえ方をさせてしまったことは申し訳なく思います。

樹木医の判定について、複数の方から意見をいただきたいとのことですが、樹木医に限らず、桜に関わる様々な方がいらっしゃいますので、その方々からも意見をいただきながら進めたいと考えています。

たましん前のカラスについては、カラスが巣をつくり、ひなが落ちたことで、親ガラスが通行人の頭を襲う状況があり、苦情もあったため、立て看板を設置しました。ご意見のとおり、生物多様性を含め、木の役割は十分あると思います。その点も丁寧に理解しながら進めたいと考えています。

(基盤整備担当部長)

診断士だけではなく、実際に現場で様々な作業をしている方や造園業者など、専門的な方の知見も併せて進めたいと思っています。1人の意見だけで何かを行うことはありませんので、ご理解いただければと思います。

(環境政策課長)

複数の樹木医の専門的な知見から診断してはどうかとのご意見を踏まえ、様々な観点から精査したいと思います。一方、これまでの経過を徹底的に確認し、どのような変化があったかを

把握するため、同じ方に継続してお願いすることにも意味がある場合があります。複数の視点で何ができるかを考えるとともに、機器診断だけでなく、外観診断、これまで携わってきた方々との現地確認を行いながら、丁寧に進めたいと考えています。

大学通りは、景観の観点から桜のほかにも四季の緑や自然の生き物を大切にする考え方で環境整備を進めてきました。生き物の視点を含め、全体的なことを勘案しながら考えていきたいと思っています。

(参加者)

国立のさくら組として活動しております。先ほど、国立の桜をいろいろ管理してきたと仰いましたが、何を行ったのでしょうか。大学通りという、国立で最も恵まれている場所の桜を、どう管理してきたのでしょうか。「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という言葉があるように、桜の管理をほとんどしていないのではないですか。管理をしていないから大きくなり過ぎ、手が付けられなくなり、そのため象徴的な木を2本ばっさり切ったのではないですか。

先ほど説明のあった2本は、赤いテープが巻かれ、その後テープが外されたので、伐採されなかったと思っていたところ、騙し討ちのように切られました。写真を見れば、確かに空洞や腐朽率は高いですが、よく見ると周囲は全部生きています。パイプのように生きています。地面には、その数十倍の根が張っています。なぜ切ったのですか。腐朽率と空洞率の数字だけで切ったのではないですか。樹冠が大きいから危ないのであれば、まず剪定ではないですか。剪定より先に伐採になっています。今回、伐採予定は何本ありますか。

昔から環境政策課と何度も話をしてきましたが、国立市にはお金がないということでした。今回3,000万円の予算が付きまして。その3,000万円は、切るためではなく、まず調査に使い、どこまで木を生かせるかを調べるための費用だと思います。国立駅南口駅前広場にはB2判定の木が何本もありますが、谷保駅南口にも、ほとんど同じ樹齢の桜があります。あれは国立駅南口駅前広場のように枝が野放図に出ておらず、綺麗な樹形で安定した桜になっています。誰が剪定したのかと思うくらい、しっかり剪定されています。切ることは管理ではありません。お金がないから管理できないということではなく、手を入れることが必要です。

平成の時代に、大学通りの桜の維持管理を検討する会があり、既に細かな話が始まっていました。環境政策課も非常に熱心に応じてくれ、これで国立の桜は安定すると思っていました。しかし、コロナ禍で会議は全てなくなりました。多くの方から意見をいただきながら、それをどう反映するかが全く行われていません。本質的に、国立市の姿勢に、「とりあえず聞いておこう」というところがあるのではないですか。

桜守の方について、桜の愛好者として活動し、子どもたちと一緒に熱心に取り組んでいることには頭が下がります。ただ、その取り組みが裏目に出ている面もあると思います。桜の根元に最初は紫色の花の種を蒔き、それがうまくいかなかったため菜の花を植えました。菜の花を植えたことで、大学通りは田んぼのような状態になりました。本来はもっとスケールの大きい空間になるはずですが、人が中に入らなくなりました。土が踏まれず柔らかくなり、大きくなった木はかえって倒れやすくなる面もあります。

また、ロープで囲い、大学通りの自然と人を離しました。元々は、人を排除することから始まったのではないはずです。一橋大学側の緑地に車が乗り入れて野菜を売っていたため、それを排除するためにロープを張ったのが始まりです。人を排除するためにあったわけではありません。市がこれまでどのような管理をしてきたのか、まずそこからお聞きしたいと思います。

(環境政策課長)

「管理」という言葉が適切かということも含めたご意見だったと思います。市がこれまで行ってきた対応について申し上げますと、毎年度、外観診断として全数調査を実施しています。その中で、外観診断により課題が見られる樹木については、毎年度 10 本程度、精密検査、いわゆる機器診断を行い、年次ごとに重ねてきました。

今回、令和 6 年に、外観診断等を経て機器診断の必要があるとした樹木を診断した結果、腐朽空洞率 80.7%、76.2%という、数字だけを見てもかなり大きいと認識する結果が出ました。その経過の中で、もう少し剪定など何か対応していれば、この状況に至らなかったのではないかと考えれば、今振り返ると、もしかしたらできたことがあったのではないかと考える部分もあります。樹木を保全しながら、どう残すかは考え続けてきましたが、矢川駅北口駅前広場の事故も踏まえ、まず大きな数値が出ているものについて、市として一義的に対応を進めました。

今後、大学通りの桜は市のシンボルでもあり、これをどう残していくのかを考えます。やむなく対応しなければならない木もあると思いますが、具体的にどのような手入れができるかについては、市だけでは知見が足りない部分があります。桜守の方は、専門性がないとのご指摘もありましたが、継続的に地域に関わり、貴重な意見をいただける方だと思います。その方々と一緒に、何ができるかを丁寧に進めたいと考えています。

(市長)

過去にどのような管理をしたかについて、私を含め、ここにいるメンバーも、過去の全てに関与してきたわけではありません。特に、今答えた環境政策課長は令和 8 年 7 月に着任したところですので。過去の状況も受け止め、今考えているところです。ご意見にあったように、管理と

してもっとこうすれば良かったということを今後どのように生かせるか、しっかり考えていきたいと思います。

本日は、その考え方の一部として、土壌改良などをご説明しました。現在の矢川通りではできない土壌改良を、今後はできるような道路改修にするなど、できる限り取り組んでいきたいと考えています。

(参加者)

矢川通り、大学通り、国立駅南口駅前広場の3か所は、それぞれ状況が違っていると仰いました。状況が違っていると言いながら、腐朽率という同じ基準を持ってくるのは矛盾しています。大学通りで先日切った桜が矢川通りにあったら、判断が違うかもしれません。状況が違う中で、1本1本をしっかりと見なければなりません。

縦穴掘削も何か所も行っていました。予算がないと、当時の係長から聞きました。一橋大学前や、もう少し南側でも行っていたようですが、難しい面があったようです。それでも、そういう苦労はするべきです。今までお金がなくてできなかったとしても、予算を調達するのであれば、伐採ではなく、剪定など木を生かす方法に使えないでしょうか。

本話し合ったこと、皆さんが聞いたことが、どのように反映されるのでしょうか。前回も申し上げましたが、「説明会をやったから、もう良い」ということではありません。市民の意見をすぐに反映して欲しいと思います。危険な木を切るなどとは言いません。切った木についても、何とかしたいと思っています。以前、環境政策課から、切った桜は伐採業者へ渡し、廃棄すると聞きました。欲しいと伝えましたが、業者に伐採と廃棄を委託しており、廃棄の途中で止めることはできないと市職員から言われました。

先日、別の市立学校でも桜が切られました。これも何とかしたいと思いましたが、そこから別の場所へ移動するには手続きが必要だと言われました。長く生きた木を切る辛さを感じて欲しいと思います。皆さん、堂々と進めてください。堂々と進めるためには、市民の意見をしっかりと汲み取ってください。

今回だけではなく、今後も多くの会議を開き、本当に様々な人の意見を聞いてください。道路は分かりやすいですが、環境は分かりにくく、都市計画はもっと分かりにくい。それらを部署横断的に組み合わせて取り組めば、桜は絶対に切られなかったと思います。

(参加者)

皆さんのお話と市の説明を聞き、矢川駅北口駅前広場の倒木を受けて、B2判定は全て伐採ということになりそうだと私もショックを受けました。本日の話し合いが、市と皆さんの中で改めて咀嚼され、より良い方向へ進むことを願っています。

伐採だけでなく、土壌改良など、もっとできることがないかという話がありました。私が心配しているのは、資料３ページの矢川通りの説明に、整備イメージとして都市計画道路３・４・１０号線が出ていることです。私は普段この道を使っています。近年新しくできた道路ですが、植えられた桜はソメイヨシノとは全く違い、なぜこの樹種を選んだのかと思います。全体に人工的な感じがします。植樹桝も、将来、１０年、２０年たって木が大きくなれば苦しくなるのではないかと思うような大きさです。こうしたことを考えて作られたものなのか、これが今の最先端なのかと、毎日通るたびに疑問に思っています。

伐採ありきではなく、植え替える場合の方法も、もう少し検討しなければなりません。今植えられている桜も苦しんでいるのではないかと、歩道を歩きながら思っています。今後、どのような検討を行うのでしょうか。

（道路交通課長）

陽光を選んだ経過について、国立駅周辺整備を進める中で、市民の方が桜を大切にしていることを踏まえ、桜の開花時期のグラデーション、色合いや開花時期を検討する必要があると考えました。同じ樹種で統一感のあるまちづくりという考えもありますが、それよりも開花時期を広げるという考えです。桜まつりは４月上旬にあります。桜の開花時期を選ぶことはできません。開花時期を広げることで、市内外の様々な方に喜んでいただけるのではないかと考え、陽光を選びました。

道路環境については、都市計画道路として必要な幅員があり、最低限の用地買収で整備している事情から、都市計画道路３・４・１０号線では、あの大きさの植樹桝しか確保できませんでした。その中でも、桜にとってできるだけ良い環境となるよう整備したと考えています。根上がり防止措置も行い、将来、さくら通りや矢川通りのように舗装ブロックが持ち上がって通行しづらくならないようにしています。桜が長く生育できるような措置として整理しました。

また、木には水が大切です。道路面の水をすぐに排水するのではなく、地下へ浸透させる構造とし、透水性舗装や透水性平板を使用しています。国立駅北口駅前広場の陽春３本の周囲でもそのような対策を行っており、今後、国立駅南口駅前広場でも同様の対策を行いたいと考えています。

（司会：政策経営課長）

まだご発言されていない方もいらっしゃると思いますが、会場の都合もありますので、本日はここまでとさせていただきます。

（参加者）

今後のスケジュールを教えてください。このような会は、また開かれますか。

（司会：政策経営課長）

先ほどの説明にもありましたが、一つは、今後の桜全体の検討がありますので、その中でご意見を伺う機会があると思います。また、各エリアで具体的な整備に入るときには、エリアごとにご意見をいただく機会があると思います。現時点では、次回を何日に行うかまでは決まっています。

（参加者）

本日来られなかった方もいます。今日の記録を出した後、パブリックコメントのように、広く意見をメールで送れる仕組みをつくれますか。

（司会：政策経営課長）

現時点では、そこまでは検討できていません。まず、本日の記録をどのように公表するかも含め、考えていきます。

（参加者）

検討してください。

（司会：政策経営課長）

本日、時間の都合でお話しできなかったこともあると思います。お手元の意見記入用紙にご記入いただき、ご提出いただければ、しっかり確認します。本日は多くのご意見をいただき、ありがとうございました。これをもちまして、「桜の更新のあり方に関する市民説明会」を終了いたします。ありがとうございました。

（閉会）

以上